

## 銚子の食品加工

当市の製造業において、醤油醸造・水産加工・練製品製造・缶詰製造等の食糧品製造業が占める割合は、平成26年の工業統計調査の結果を見ると、事業所数は105事業所で、市内製造業全体の事業所数175事業所の60%となっています。また、従業者数は3,842人で、全体4,757人の80.76%、現金給与総額は138億8,668万円で、全体169億1,510万円に対して82.09%、原材料使用額等は859億9,521万円で、全体962億659万円の89.39%、製造品出荷額等は1,531億4,797万円で、全体1,701億3,031万円の90.02%、粗付加価値額は632億6,503万円で、全体696億2,003万円に対して90.87%、有形固定資産年末現在高(従業員30人以上)は、全体で409億8,026万円で、全体426億234万円の96.19%と、いずれの項目を見ても6割から9割以上と過半数を占めています。

表1 市区町村別、産業中分類別統計

市区町村	産業分類	調査年	事業所数		従業者数 (人)	現金給与 総額 (万円)	原 材 料 使用額等 (万円)	製造品出荷額等		粗付加 価値額 (万円)	有形固定資産 年末現在高 (従業員30人以上) (万円)	
			計	内従業者 30人～ 299人				内従業者 300人 以上	内その他 収入額 (万円)			
銚子市	00 製造業計	2014	175	27	2	4,757	1,691,510	9,620,659	17,013,031	853,931	6,962,003	4,260,234
銚子市	09 食料品製造業	2014	105	23	2	3,842	1,388,668	8,599,521	15,314,797	831,498	6,326,503	4,098,026
銚子市	10 飲料たばこ飼料製造業	2014	12	-	-	116	47,577	424,789	545,740	15,292	112,734	-
銚子市	11 繊維工業	2014	8	-	-	104	22,246	36,480	71,689	3,610	32,844	-
銚子市	12 木材・木製品製造業 (家具を除く)	2014	1	-	-	7	X	X	X	X	X	-
銚子市	13 家具・装備品製造業	2014	2	-	-	16	X	X	X	-	X	-
銚子市	15 印刷・関連業	2014	3	-	-	38	12,383	27,619	44,631	-	15,870	-
銚子市	16 化学工業	2014	1	-	-	29	X	X	X	-	X	-
銚子市	18 プラスチック製品製造業 (別掲を除く)	2014	2	-	-	31	X	X	X	-	X	-
銚子市	19 ゴム製品製造業	2014	3	-	-	39	6,848	9,413	20,059	-	9,930	-
銚子市	20 なめし革同製品毛皮製造業	2014	4	1	-	79	23,337	11,903	37,300	-	23,695	X
銚子市	21 窯業・土石製品製造業	2014	2	1	-	94	X	X	X	-	X	X
銚子市	22 鉄鋼業	2014	2	1	-	56	X	X	X	-	X	X
銚子市	23 非鉄金属製造業	2014	2	-	-	13	X	X	X	X	X	-
銚子市	24 金属製品製造業	2014	7	-	-	81	25,123	52,513	121,991	1,261	64,812	-
銚子市	25 はん用機械器具製造業	2014	6	-	-	43	16,857	16,726	41,726	2,000	23,321	-
銚子市	26 生産用機械器具製造業	2014	4	-	-	37	13,342	12,374	36,586	-	22,586	-
銚子市	29 電気機械器具製造業	2014	1	-	-	4	X	X	X	-	X	-
銚子市	31 輸送用機械器具製造業	2014	6	1	-	106	39,941	103,907	204,968	-	94,382	X
銚子市	32 その他の製造業	2014	4	-	-	22	4,883	3,096	13,708	185	9,899	-

平成26年工業統計表「市区町村編」データ(経済産業省大臣官房調査統計グループ)「平成28年4月8日公表」

なかでも、水産加工業と醤油醸造業が食品製造業の双璧ですが、どちらも冷涼・温暖・湿潤な気候と、江戸時代の利根川や廻船の水運、潮流などによる恵まれた漁場など、地理的・歴史的な背景から発展してきた産業です。

醤油醸造業は、1616年(元和2)に飯沼村の田中玄蕃が醸造を始め(現ヒゲタ醤油株)、また、1645年(正保2)には紀州から移り住んだ濱口儀兵衛が醤油醸造を開始し(現ヤマサ醤油株)、元禄期前後に銚子の醤油産業が発展しました。その後、醤油味を基にした佃煮、煎餅や、缶詰、干物、はんぺんなどの食品製造・加工業が加わってきました。



一方、当市の基幹産業のひとつでもある水産業においては、銚子漁港の平成28年の水揚げ量が27万5千トンと、6年連続で日本一となっており、食の一大消費地である東京を始めとした首都圏への食糧の供給を担っていますが、実は水揚げ量の大部分が冷凍して新興国に輸出されるなどの原料供給的な側面を有していて、日本国内向けの水産加工業は輸入魚を使用する例が多くなっています。



近年は、家庭内調理の減少もあり、水産加工業、醤油醸造業のどちらも基礎調味料や生鮮素材の需要が減退しており、全体の数量は低迷していますが、例えば調理済みの水産惣菜や、醤油ベースの複合調味料などの利用は増加しています。今後はシニアのニーズを捉えた商品は伸びる可能性があり、手軽に調達できる加工食品は更なる需要が見込まれます。

醤油、水産加工品どちらも和食に相性が良いので、2013年12月に和食がユネスコの無形文化遺産に登録された事も追い風として、世界的な和食ブームに乗り、四季折々の旬の食材を使用した、理想的な栄養バランスが摂取できる、健康志向に沿った、魚、米を中心とした食文化を、国内の観光客や訪日外国人旅行者(インバウンド)に向けて発信・PRする事により、地域活性化の一助となる大きな可能性を秘めています。

また、銚子市を中心とする千葉県東部地域は、農業も非常に盛んであり、キャベツ、大根、メロン、トマトを主力としていますが、6次産業化による付加価値生産事業者は少なく、今後の課題でもあり同時に期待される食品加工産業分野でもあります。

水産関連事業者における工場設備では、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、独立行政法人中小企業基盤整備機構等の積極的な海外輸出に対応するため HACCP 認証加工設備を建設し、販路拡大を目指しています。これらの動きは、2020年東京オリンピック、パラリンピックを意識した言わば、「食のグローバル化」に対応したものであり、インバウンドで増加する外国人訪問客へ国としての方針となっています。